

第7回浦和区区民会議 議事録（確定版）

1 日時：平成18年1月19日（木） 18:30～21:00

2 会場：さいたま市民会館うらわ 503、505

3 出席者（敬称略）

団体推薦：新井幸芳（青少年育成さいたま市民会議）、大関豊壽（浦和歯科医師会）、小川晃（埼玉中央青年会議所）、柿塚一二三（浦和区民生・児童委員協議会）、坂場きみ（地区社会福祉協議会）、坂本和哉（浦和区自治会連合会）、大工原潤（元市民懇話会）、大郷恒吉（北浦和GINZA レッズ商店街）、中島昌男（さいたま市薬剤師会）、東一邦（さいたまNPOセンター）、藤倉幸親（さいたま商工会議所）、吉野勝則（さいたま市PTA協議会浦和区連合会）

公募委員：樫田範子、岡野昭夫、鈴木隆吉、山本信子

コミュニティ会議委員：秋山忠一（北浦和総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブをつくる会）、岡田唯文（コミュニティキャンパス浦和）、丸山繁子（さいたま市リサイクル女性会議・浦和）、渡辺修（中山道浦和宿二七の市実行委員会）

浦和区長：宮澤健二

事務局：小泉俊一（総括参事）、新藤茂（区民生活部長）、磯部弘（健康福祉部長）、長島光正（区民生活部コミュニティ課長）、日野徹（調整主幹）、佐藤好英、丸山彦文（主幹）、金子秀行（副主幹）、大嶋幸子、小宮慶太（主任）

運営補助：安井英人（システム科学コンサルタンツ㈱）

4 次第

1．開会

2．議事

- (1) コミュニティ会議の認定について
- (2) 助成申請団体の事業計画の説明について
- (3) 平成16年度まちづくり推進事業費の決算について
- (4) 各部会からの報告について
- (5) その他

3．閉会

5 内容

議事概要

(1) コミュニティ会議の認定について

（事務局の説明）

昨年12月27日に30番目のコミュニティ会議として「紙こぼこ」を認定した。平成12年の公民館講座をきっかけとして、手作りの紙芝居を数多く実演してきた団体である。新たに郷土かるた作りにも着手すること。平成15年以前の設立団体だが、新規事業の立上げや事業拡大に積極的であることから、妥当と判断した。なお、併せて補助金の交付

申請も出されているので、後ほどご説明頂く。(委員、了承)

(2) 助成申請団体の事業計画の説明について

(事務局の説明)

コミュニティ会議からの事業計画説明の前に、前回ご指摘のあった共用備品についてご報告する。備品の多くは初期設備として購入されているが、相互利用も図れるよう、一覧の配布や相談時の説明などを行っている。

(意見交換)

委員：備品は、鍋などの小さなものも含めて、もう少しあったと思うが。

事務局：貸し出し可能という意味を確認できたものに限っている。

委員：「貸し出しの手順」として、希望者は個々の団体に直接連絡するのか。

事務局：各団体の担当者としている。

委員：個人の連絡先の情報はあまりオープンにできないのでは。以前借りたことがあるが、その際はコミュニティ課に仲介してもらった。このリストの使い方によってはコミュニティ会議以外の方が連絡を取ったりすることもあり得るだろう。最初のコンタクト先はコミュニティ課にしてはどうか。

事務局：連絡の橋渡しをすることはできるかもしれないが、備品自体の管理はできない。

委員：担当者に連絡して、そこまで行って受け取ることになるのか。

事務局：各団体の所有備品として、それぞれの信用に基づいて貸出してもらうのが前提である。

委員：第1期からこの点は指摘してきた。あくまで所有は区民会議で、各団体に管理してもらっているという位置づけではないのか。実際にいろいろ運営してみて、おかしなことが起こったら、また考えてはどうか。

議長：では、事業計画の説明に移る。

事務局：12月に助成を申請された4件について、団体代表の方から事業計画の説明を頂く。

北浦和いい(e)街づくり推進委員会

(事業概要の説明)

今年で3年目であり、情報充実のため、「浦高通り商店街」まで協力対象を拡大する。これに伴い、トップページもリニューアルする。また、QRコードを利用したモバイルサイトを立上げ、防犯情報なども含めて、より多くの住民が必要な情報を容易に得られるようにサービスを向上させる計画である。

運営部会からモバイルサイトの作成費用が高額(80万円)であることについて質問があったが、これは元々300万円以上という金額を100万円に抑えた上で、バナー広告等の導入も加えて下げたものである。今後のサイト更新については、埼大生等も交えて無償で進める方向を考えたい。

(部会の判断について)

今年度で助成3年目の事業である。運営部会では、新しい技術を活用したモデル的な事業としては大変有意義であると受け止めたが、先ほど説明頂いたように、モバイルサイト

作成費が高額であること、また、今後もその更新費用が発生することが懸念されること、などが指摘されたため、質問したところである。これらについて明らかになったため、部会としては異存なしとしたい。

(意見交換)

- 委員：確かに情報の充実やアクセスの向上は必要とされていると思う。発生犯罪の情報アップなどは全部自動で行われるのか？ また、資料にある犯罪発生に関する図面はわかりにくい。
- 団体：情報アップはできるだけ自動にしていきたいと考えている。また、資料にある犯罪マップのイメージは県警のものであり、実際にはより詳細なものを所轄署から提供してもらおう予定である。
- 委員：実質的に商店街からの会費(+助成)で、自治会のサイト作成・管理も請け負っていることになっていると思うが、今後は自治会は自分たちでもできるようにしていくべきではないか。例えば、研修なども考えられるのでは。
- 団体：それも考えている。実際に3丁目自治会にはPCを置いて、協力を得ている。
- 委員：それでも、全体金額はこのくらいかかるのか？
- 団体：ウェブサイトの設計は流行の影響を受けやすいので、素人のものではすぐに飽きられてしまう。プロはそうならないノウハウを持っている。本当はもっと高いところをかなり安く請けてもらっているとは思っている。
- 委員：最新技術を使ったモデルとしては良いと思う。ただ、その意義を差し引くと、今後の事業継続にはやはりランニングコストと人的なポテンシャルが気になる。
- 団体：確かにそうだと思う。しかし、成功例で道筋を示すことも重要だと認識している。
- 議長：では、他にご質問やご要望がなければ、この事業については、部会と同様、区民会議として特に異存なしとして、次に進みたい。

上木崎ボランティア遊登里(ゆとり)

(事業概要の説明)

最近、子どもの安全も問題になっており、その意味でも地域の住民が知り合いになって、見守り効果を高める必要があると考えている。その一環として、これまでの助成で購入した備品を活用して、そば打ちを行ってきた。大変好評であり、道具の貸し出しも行っている。3年間使用しているため、専用包丁のメンテナンスも必要になっている。

(部会の判断について)

今年度で助成3年目の事業である。備品の貸し出し料金徴収などは、他事業との関係も考えて検討しなければならないが、今回の助成については、事業も定着し、今後の自立の方向性も探れるものと判断し、部会としては異存なしとした。

(意見交換)

- 委員：参加者から材料費などはもらっているのか。
- 団体：もらっている。
- 委員：貸し出した際に刃こぼれなどが生じていれば、先方からメンテナンス料をもらっても良いだろう。
- 委員：あるいは、直して返してもらえば良い。

議長：では、その他になれば、区民会議としても異存なしとしたい。

中山道浦和宿二七の市実行委員会

(事業概要の説明)

今回3回目の開催となるが、変更点としては、前1、2回は1日間で朝から夜までの開催だったものを、今回は2日間に分けて10時から16時までの日中のみの開催とした。また、大道芸や写真展などの新たな企画や、好評の野菜即売の充実を計画している。商店街マップを少し簡単なものにし、夜間イベントをなくしたことによって照明代がなくなったこともあり、2日間実施しても事業費の増額にはならないようにコストの削減に配慮した。

(部会の判断について)

これまでの経験を活かして、事業として改善された上、コストも削減されている。部会の意見交換では、今後は市民会館うらわ等も活用して、コミュニティ会議などの活動発表の機会なども設定したり、常盤地区だけではなく区民全体の交流の場として、面的な広がりについても検討し、より大きなイベントに成長することを期待して、異存なしとした。

(意見交換)

委員：今後、「後援」に区民会議を加えることも考えていっても良いのではないかな。

委員：事業費の中にある委託費の内容を知りたい。また、会場使用料は誰に支払うのか。

団体：委託費はほとんどがキャラクターショーの費用であり、その他は音楽グループ等への支払いである。また、会場使用料は市の南部都市公園管理事務所に支払う。

議長：では、その他になれば、区民会議としても異存なしとしたい。

紙こぼこ

(事業概要の説明)

活動内容については、先ほどのご説明のとおり、公民館講座をきっかけとして発足し、現在は年間60回程度、紙芝居をいろいろなところで実演している。その他に廃品利用の工作指導なども行っている。今回は新たに針ヶ谷地区の歴史に関する「郷土かるた」を作成し、地域への愛着やコミュニティ活性化を目指す事業について、助成をお願いしたい。

(部会の判断について)

非常に活発に活動しておられて素晴らしい。ただ、今回の事業計画については、全般的にかなり経費が小さく見積もられているように見受けられ、逆に持ち出しになることやカルタのつくりの丈夫さなどを懸念する意見が出されたが、活発な活動実績を踏まえ、今後の地域活性化への協力に期待し、部会として異存なしとした。

(意見交換)

委員：年間60回以上も実演しておられて、移動はどうされているのか。その経費が必要なのでは。

団体：自転車で行くので経費はかからない。

委員：カルタの大きさはどのくらいか。

団体：ハガキの2分の1サイズである。カルタの作画についても、実は知人に無償で依頼していたが、事情でできなくなったため、急遽費用が必要になった。

議 長：では、その他になければ、区民会議としても異存なしとしたい。

(3) 平成 16 年度まちづくり推進事業費の決算について

(事務局の説明)

区民まちづくり推進事業全体としては、107,630千円の予算のうち、約99%を執行した。内訳としては、まちづくり基本経費とまちづくり事業経費がコミュニティ課所管の予算であり、これが約91%の執行となっているが、このコストダウン分は生活課所管の区民満足度アップ経費の予算の補完(執行約103%)に充てたところである。

なお、には区民会議の運営や「魅力あるまちづくり推進プラン」の作成など、には広報やコミュニティ活動等助成に加え、浦和レッズ・レイナス写真展などが含まれ、は道路や交通安全施設等の修繕、公衆便所の維持管理などが含まれている。

(意見交換)

委 員：区民会議の運営には何が含まれるのか。

事務局：コンサルタントへの委託に約2,500,000円、委員への謝礼等で報償費483,000円、保険12,500円、会議室の使用料68,900円、会議の飲み物等で食料費60,000円、視察時のバス借り上げ94,680円、消耗品87,000円、などの費用である。

議 長：では、今後もまちづくり事業についてご意見を願います。

(4) 各部会からの報告について

企画部会からの報告(大工原)

ア．浦和駅東口市民広場提案の提出報告について

浦和駅東口市民広場について、前回の区民会議での意見を踏まえた案を12月26日に提出し、担当課に加え、パルコ、大林組、UFJ、コンサルタントの出席した総合会議で説明した。主なポイントとしては、イベント広場機能や休憩機能は設ける、掲示板については詳細は未定だが、デザインなどには留意することなどが確認できた。具体的なレイアウトはまだ検討段階だが、我々が提案している舞台の位置辺りにはベンチやウッドデッキ等が配置され、仮設楽屋などは考えていないとのこと。年度末の3月ごろには図面ができる予定である。

イ．企画部会テーマの検討について

テーマとしては、東口広場、防災、緑化、地域通貨をあげている。それぞれ担当課から話を聞いたが、東口以外の議論はまだ不十分と認識している。防災については市民だけでは対応が難しく、緑化については土地の問題もあるため、防犯も含めた安心安全のまちづくりという視点からもアプローチしたい。また、緑化については、景観計画策定のタイミングにも合っているので、それも含めて検討したい。地域通貨については、広場や安心安全、景観等におけるボランティアの役割などを整理するときアイデアが出せるかもしれない。検討は来年度も継続する。

ウ．市への提案について

9月に各委員から提出された提案について意見交換した。大まかに、報告書に掲載するもの、市の検討・取組み状況を確認する必要があるもの、掲載しないものに整理した。提案された本人のご意見を聞いていないので、ご意見を頂きたい。

（意見交換）

委員：No.12として、ときわ会館の「市民活動ひろば」を平日夜間・土日も利用できるよ
うにという提案があり、東口施設内の市民活動支援センターがそうした運営になる
のであれば報告書には掲載しないという検討結果となっている。しかし、東口の施
設はすぐにできるわけではないので、ときわ会館について提案しておくのは良いの
では。

No.14として、地域福祉計画の推進における地域住民の実効的な協働の必要性が提
案されているが、現在新しい計画のパブリックコメントを実施中であり、成案にな
る前にうまく反映したい。

委員：自分もその新計画に関する協議会に参加しているが、メンバーに自治会が入ってい
ない。地域のあり方や役割は変わりつつあるが、地縁コミュニティや地域住民との
連携が必要だと思っている。

委員：NPOやテーマ型コミュニティについても強調したい。

議長：では、次の部会報告に移りたい。

運営部会からの報告（運営部会長）

前のご説明したように、コミュニティ会議のあり方や支援策について、引き続き検討し
ている。具体的には、「平成15年度から実施している団体を認定・補助対象としているこ
とについて」、「助成期間を原則3年としていることについて」、「広報・PRの効果的な方
法について」、「助成申請団体の審査体制（方法・プロセス）について」、「NPOの登録等
の可能性について」などが主な検討事項である。

特に、NPOについては東委員に前回部会でレクチャーを受けた。非営利という意味や、
事業報告等を県に提出していることなどもわかった。個人的には、NPOは特に区別せず、
趣旨が合えば他の団体と同様に扱えば良いのではないかと思っている。しっかりと審査す
れば良い。ただし、NPOの場合、浦和区という地域限定の活動ではない可能性がある。

いずれにしても、次回部会（2/13）に結論を出さなければ、来年度からの運用に間に合
わないため、ご意見がある方は是非出席頂きたい。

広報部会からの報告

ア．各種発行の冊子等作成について（広報部会長）

区民便利帳については、各委員のご協力により完成した。感謝する。前回との変更点は
写真数点の差替え、写真キャプションの挿入等である。最終的な文面については、各担当
課の確認も終わっている。3月に全戸配布の予定である。

イ．浦和区コミュニティの広場について（広報部会長）

1月12日に実行委員会を開催し、準備状況の確認や役割分担を行った。2月12日(日)午後1時から北浦和駅西口の「浦和ふれあい館2階第1会議室」で実施する。是非お知り合いにも声をかけ、ご参加頂きたい。実行委員は10時に参集のこと。

加えて、区民会議の広報活動については、中山道浦和宿二七の市の会場において、公園内にブースを設置し、パネル展示などを行う予定である。

なお、コミュニティ会議をPRするためのノボリ旗を作成することとした。

“区民会議だより”、“PR用リーフレット”について(広報副部長)

リーフレットについては、2月12日のコミュニティの広場に間に合わせたい。配布した案では、コミュニティ会議の別称に決まった「魅力あるまちづくりグループ」という表現が何度も出てきて、少しくどいかもしい。

区民会議だよりについては、前回「わくわくうらわく」という表現は「わく」が何度も出てくるので検討されたいという意見があったが、“うらわ”で止めてしまうと、周辺3区を含む旧浦和市のイメージになるため、やはり「く」は必要と考える。単純に漢字表記としてみた(「わくわく浦和区」)。内容としては、区民会議の提案や、正副会長及び区長の一言などの掲載が考えられる。また、備品リストの掲載も考えたが、先ほども意見を述べたように、個人情報載っているのは全戸配布できない。やはり、連絡先はコミュニティ課が良いのではないかと考えている。内容については、引き続き、部会で吟味していく。

(意見交換)

委員：確かに「魅力」という表現が多い。

委員：「まちづくり」という言葉も多い。“区民活動”などという表現でも良いのでは。

副部長：わかり易い表現になるよう、これからも検討していく。

議長：では、意見があれば、部会にお寄せ頂きたい。時間になったので、事務局からのその他の報告の後、会議を終了する。

(5) その他

- ・次回区民会議全体会は3月18日(土)午後2時から、さいたま市民会館うらわ503で開催する。
- ・平成18年度の第1回目については、4月20日(木)夜、22日(土)午後を選択肢として日程調整し、決定の上、別途連絡する。

以上